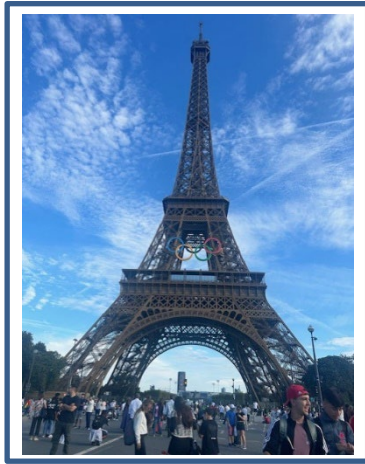




氏名 ST
所属 文学部 言語文化学科
学年 3年

留学先 CY セルジーパリ大学
留学期間 2024/9/1～2025/1/31

留学レポート Study Abroad Report

【留学したきっかけ】

私は2023年度の夏にマラヤ大学の短期留学プログラムに参加しました。そこで初めて外国で生活をし、海外の友人と交流して異国の文化を学びました。その経験がとても楽しく、充実したものだったため、もう少し長い期間留学してみたいと考えました。私は一年生の第二外国語の授業でフランス語を勉強し、二年生以降もフランス語の授業を履修していました。フランスの文化も同時に学び、フランス文化について深い関心を持ったため、渡航先としてフランスを選びました。

【大学での生活】

私が留学したCYセルジーパリ大学では英語日本語学科に所属し、日本語を学んでいる学生とともに授業を受けていました。授業はCMという講義とTDという少人数で行う授業がありました。私は基本的にはTDを受講し、日本語の長文をフランス語訳する授業などを履修していました。私たち留学生は一年生から三年生まで自分が希望する授業を自由に取り取ることができました。私は基本的に二年生と三年生の授業を取りました。英語日本語学科のフランス人は一学年二クラスに分かれており、決められた授業を取っていました。どのクラスの学生も本当に優しく、たくさん話しかけてくれました。基本的に日本語を仏訳するという性質上私にとっては難しく、授業についていくのが大変でしたが、そんな時でも彼らは分からないところを教えていつも助けてくれました。もちろん私が彼らの分からないところを教えることもありました。一方で英語については、彼らの方が圧倒的にレベルが高かったです。大学の授業を受けていて、フランス人は間違いを恐れず積極的に発言する人が多いと感じましたが、そのような気質も影響しているのかもしれない。私も見習わなければいけないと思いました。授業外でも一緒にお昼ご飯を食べたり、出掛けたり、家に遊びに行ったりとたくさんの思い出を作ることができました。日本語英語学科の学生は日本に興味を持ってくれていることが多く、アニメや漫画の話もたくさんしました。彼らが好きな作品の中には私がまだ見たり読んでいないものも多かったため、もっとたくさん見ておけばよかったと思いました。また、私はあまりフランス映画を見ていなかったため、それらもたくさん知っていればもっと面白い話ができただろうなと思います。

大学では所属していた学科の授業だけでなく、外国人向けに開校されている語学学校も受講しました。生徒は大学の学生に限らず、幅広く募集されていたため、様々な国や年齢の人がいました。私はA2のクラスに振り分けられましたが、同時に自身の会話の能力がかなり低かったため、授業についていくのが大変でした。聞き取りもあまりできなかったし、話すのもどのように言えばいいかわからず苦労しました。

【住居について】

私はフランス政府寮の CROUS に入居したかったのですが、できなかったため、民間の寮に入りました。寮は大学が提供している住宅探しのサイトで見つけました。入居までの数日間はホテルに滞在していました。どうしても異国の地で知らない人と半年間共同生活をするということが不安で、ホームステイやシェアハウスを選びませんでした。今振り返ってみると、1 人暮らしでは積極的に予定を作らないとフランス語を話す機会を持ちづらかったため、勇気を出してシェアハウスなどに挑戦してみてもよかったと少し後悔をしています。

入居した寮は電気代を別で契約しないといけなかったのも大変でした。新築だったので建物はとてもきれいで、最初の方は快適でした。しかし、十二月ごろから水漏れが発生し、一度業者が来て止まったものの年末に再発しました。時期も悪かったのか、何回依頼しても一向に業者が来ず、手配されているのかも分からない状態で、天井の表面が崩れるなど悪化の一途をたどりました。最終的には帰国一週間前になってようやく対応してもらいましたが、大変不便な生活を送りました。

【奨学金について】

私はフランス政府とヴァルドワーズ県合同の奨学金を受給していました。月 600 ユーロの支給、航空券、ビザの料金などの支援を受けました。奨学金プログラムの一環として、県内の旅行や中学校訪問と言った機会を用意していただきました。県内の旅行ではレストランでフランス料理を体験したり、歴史のあるお城へ訪れたり、県知事（のような立場）の方とお話ししたりしました。中学校訪問では、県内の中学校で日本の生活についてプレゼンを行いました。日本語を勉強している人でなくても、日本のアニメを見たことがある人がほとんどでとてもうれしく、誇りに感じました。普通の留学では体験できないことをさせてもらい、本当に感謝しています。

【休日の過ごし方】

授業がない日はパリに行くことが多かったです。セルジーはパリから電車で一時間弱離れており、建物も現代的なものが多くありますが、パリは 360 度石造りの建物で本当に美しい町並みでした。ただ散歩しているだけでとても楽しかったです。私は博物館や美術館へ行くのが好きなので、ルーブル美術館、オルセー美術館、オランジュリー美術館などによく行っていました。美しい作品がたくさんで時間を忘れて鑑賞していました。フランスでは EU 在住の学生であれば無料で多くの博物館や美術館、歴史的建造物に入ることができるので、何回でも通ったり、通りがかった美術館にお金を気にせずふらっと入ったりすることができたのもありがたかったです。私は頻繁にパリを訪れて、スリなどの危険を感じたことはありませんでしたが、人伝いでスリにあった話を聞くことはありました。地下鉄の駅などは汚く、治安も良くないと感じたため、これから留学をされる方は気を付けてほしいと思います。大学の最寄り駅も治安が良くないので、現地学生から夜に近づかないように言われました。冬になると日がとても短くなって満足に遊ぶことが難しくなっていたので、日が長いうちにもっとたくさん遊んでおけばよかったと思います。

また、友人の家に遊びに行ったり、友人を招待することもありました。私が家に招待した時は、お好み焼きを作って一緒に食べました。セルジーで材料をそろえるのは難しいですが、パリの日本スーパーや韓国スーパーに行けば大体買うことができます。友人の家ではラクレットやパスタなどを食べました。フランスの人は、多くの人が家庭用のラクレット器を持っているらしいです。多くのお客さんがたこ焼き器を持っているのと似たようなものかなと思いました。

長期休暇中には様々なところへ旅行に行きました。モンサンミッシェルや、オランダ、ドイツ、チェコなどに行きました。パリの町並みと似ているところもあれば、全然違うところもありました。フランスとはまた違った文化や食などを体験でき、とても興味深かったです。

【最後に】

留学中大変なこともたくさんありましたが、楽しいこともたくさんありました。日本では見られない景色を見て、異国の食べ物を食べて、現地の友人と出会えて、期間中に体験したことは全て交換留学に行ったからこそ得ることのできた貴重な経験でした。